大和市立中央林間小学校

学校だより

令和8年3月2日

3月号

重点目標　みんなでいっぽ

地域の中の中央林間小学校

正門からの歩道にて

正門から校舎へ続く歩道に梅の木があります。寒いころからほのかにピンクのつぼみがついていて、花開くのはまだかまだかと待っていました。今、満開です。

子どもたちは、国語や算数など各教科の内容と、集団で活動することを通しての社会性を身に着けてきました。学校では、友だち、教職員と過ごすことが大半です。しかし、1 年間を通すと、地域の様々な方々が教育活動に携わってくださったことに改めて気づきます。

今年度の学校の重点目標「みんなでいっぽ」の具体的取り組みを、この学校だよりでお伝えしてきました。今回は、「みんなでいっぽ」を支える地域の方々をほんの一部ですが紹介いたします。

「全ての子どもに学びを保障する支援教育の土台」

保護者の皆様にご協力いただきました、「令和 7 年度学校評価アンケート報告」の「問4」に、「学校は、保護者や地域の方（学童農園ボランティアやゲストティーチャーなど）と連携しながら、教育活動に取り組んでいる」という項目があります。学校からの説明に掲載しきれないほど、地域の皆様に、授業の中でご専門のお話をしていただいたり、また、子どもたちが出向き、活動をされている現場でお話をしていただいたりしています。子どもたちの学びが広がります。

例えば、中央林間小学校は、広い畑を借りており、保護者の方を含めたボランティアの方々が農園で作物を作る手助けをしてくださっています。お子さんが、ジャガイモや、大根を持ち帰られたことが、あったと思います。作物は、こうして作られるという経験は、大きくなっても忘れないことでしょう。

教室で学ぶだけではなく、実際に見学したりそこで働く方々のお話を聞いたりという体験は貴重です。例えば、消防署や、環境管理センターの内部に入り、質問をして答えていただく経験は、個人ではなかなかできないものです。

また、元 J リーグの選手に小さいころからの夢を叶えた経験を語っていただいたり、和楽器の演奏を聴き、琴を弾く体験をしたりという体験も、その分野に携わることがなければ触れることがなかった世界です。

1 年生の植木鉢。春はもうすぐ。

ここでご紹介した例は、学校の授業内でのものです。お休みの日などは、地域のみなさまが催している行事に、子どもたちが楽しそうに参加している場面を 1 年間でたくさん見てきました。これらの方々が、学区の環境を作り、子どもたちを温かく見守ってくださっています。もちろん、保護者の方々も、密に関わってくださっています。本当にありがとうございます。（校長）